

ソバの唐箕(とうみ)掛け

R7.11.22



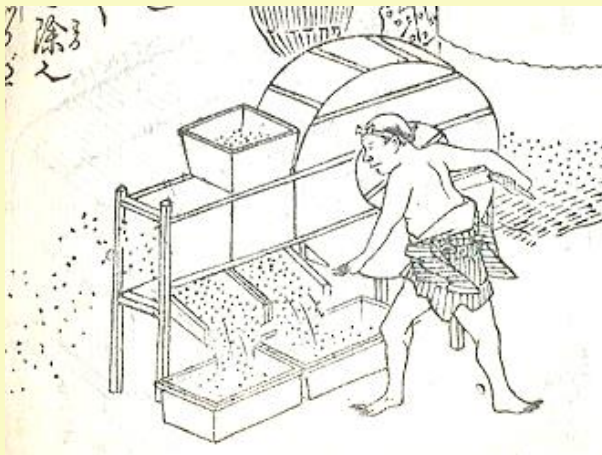
ふるいにかけてソバの実を唐箕に投入します。



乾燥機から取り出したソバの実を、ふるいで収穫したときに入り込んだ大きい茎などを取り除いています。



唐箕の操作では、ソバのみを少しずつ落下させ風に当て、入り込んだ小さな茎と実を分離させます。



唐箕(とうみ)とは、風力を利用して穀物を(米の場合)籾殻・玄米・塵などに選別するための農具です。

構造は、内蔵する3〜4枚の羽がハンドル(現在は電動)と連動して回転するようになっており、唐箕の上部に配した漏斗(じょうご)から少しずつ穀物を落下させ、そこに横から風を送ることで、藁屑や実のない籾などの軽いものを吹き飛ばし実の詰まった重い穀粒だけを手前に落とすのが基本的な原理です。



きれいになった実を、計量・袋詰め

そばの会からのお知らせ：

11月30日(日)10:00～、昭和の家に於いて『手打ちそば即売会』を開催します。ポノ菓子、天ぷらもあります。